

令和6年3月1日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター関西育種場

国指定天然記念物「^{くちおおや}口大屋の大アベマキ」

の後継樹が里帰り

^{りんぼく}一 林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組

ポイント

カシノナガキクイムシの被害により衰弱していた国指定天然記念物の「口大屋の大アベマキ」（兵庫県養父市大屋町中）の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 ^{りんぼく}林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、兵庫県の養父市長から増殖の要請を受けた「口大屋の大アベマキ」（アベマキ）の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

○里帰り日時 令和6年3月8日（金） 贈呈式 13時30分～ 植樹式 14時30分～

○場 所 贈呈式 兵庫県養父市大屋町中1026番地1

口大屋自治協議会（口大屋高齢者コミュニティセンター）

植樹式 兵庫県養父市大屋町中字法仙地 「口大屋の大アベマキ」横

○里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 2本

問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

関西育種場（平日 8:30～17:15） Tel : 0868-38-5138 Fax : 0868-38-5139

事業責任者：遺伝資源管理課 課長

たけだ のぶあき
竹田 宣明

担当者：

収集管理係長

うえの よしと
上野 義人

たけなか たくま
係員 竹中 拓馬

広報担当者：連絡調整課

課長

ふじた あきひろ
藤田 彰宏

はやし かつひろ
係長 林 勝洋

本資料は、兵庫県政記者クラブ、養父市に配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

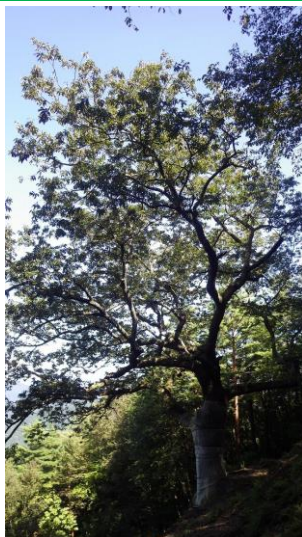
このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱している樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 326 件の要請があり、248 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 4 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

「口大屋の大アベマキ」は、兵庫県養父市大屋町中に所在し、国指定天然記念物に指定されているアベマキです。樹高約 16m、幹廻り約 5.6m、樹齢約 400 年の巨木で、枝張りもよく、風格もあるアベマキです。しかしながら、カシノナガキクイムシの被害を受け、樹勢が大きく衰退する恐れがありました。

このことから、養父市長から関西育種場に対し、「口大屋の大アベマキ」の後継樹の増殖要請がありました。令和 3 年 2 月に関西育種場職員が現地で枝を採取し、その枝をもとに、同年 3 月に 37 本をつぎ木した結果 9 本が成功しました。その後苗木は順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなったことから、このうち 2 本が、この度、兵庫県養父市に里帰りすることになりました。なお、「口大屋の大アベマキ」は、現在は防虫対策により樹勢を維持しています。

図、表、写真等



「口大屋の大アベマキ」



里帰りする後継樹